

# 平成31年度 桶川市公民館運営審議会第1回定例会

日 時 平成31年4月22日（月）

午前9時30分～

場 所 川田谷公民館2階 視聴覚ホール

## 次 第

### 書記任命

#### 1 開 会

#### 2 あいさつ

桶川市教育委員会教育長

桶川市公民館運営審議会委員長

桶川公民館長

#### 3 内 容

##### (1) 報告事項

① 人事異動について 資料1

② 加納公民館及び桶川東公民館のサークル発表会について

③ 平成30年度実施の講座の概要及び平成31年度実施予定の講座の概要について 資料2

④ 川田谷公民館（川田谷生涯学習センター）の改修について

#### 4 その他

① 平成31年度桶川市公民館運営審議会委員関係の会議について

資料3

#### 5 閉 会

## 平成 3 1 年度職員紹介について

## 【 転出・退任者 】

H 3 0	H 3 1	氏 名	日 付
加納公民館事務員	桶川東公民館事務員 (再任用)	三井 薫	H31.3.31 付退職 H31. 4. 1 付

## 【 転入者 】

H 3 0	H 3 1	氏 名	日 付
桶川東中学校長	加納公民館長 (非常勤館長)	松本 潔	H31. 4. 1 付
桶川市図書館主査	川田谷公民館主査	片岡 賢	H31. 4. 1 付
税務課主任	桶川東公民館主任	江原 雅浩	H31. 4. 1 付

## 平成31年度公民館職員名簿

### 【 桶川公民館 】

役 職	氏 名
館長	粒良 紀夫
主任	増山 幸子
主任	名取 桂樹
主任	加藤 潤也

### 【 桶川東公民館 】

役 職	氏 名
桶川東公民館長（非常勤館長）	矢野 誠二
主任	江原 雅浩
事務員（再任用）	三井 薫
主事	渋谷 京子
（主任）	（岡田 実紗子）

### 【 加納公民館 】

役 職	氏 名
加納公民館長（非常勤館長）	松本 潔
主任	大内 淳
主任（再任用）	今井 正文
主事補	成田 美恵
（主事）	（山本 栞）

### 【 川田谷公民館 】

役 職	氏 名
川田谷公民館長	関根 訪
主査	片岡 賢
主査	紅谷 有美
主事	関根 豊
主事	諸岡 禅

## I 講座開催事業の概要—過去5年間の実績

## 1. 公民館講座開催数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
桶川公民館	11講座	8講座	17講座	休館	23講座
桶川東公民館	9講座	13講座	12講座	11講座	13講座
加納公民館	18講座	21講座	16講座	16講座	15講座
川田谷公民館	8講座	12講座	13講座	19講座	19講座
合計	46講座	54講座	58講座	46講座	70講座

## 2. 幼児・家庭教育セミナー参加者数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延人数	172人	141人	120人	50人	40人

※セミナー会場は、桶川東公民館のみで行われている。

※平成30年度からは前期・後期で分けず、年度中複数回で行い、参加者はその都度募集した。

## 3. ふれあい学級参加者数の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延人数	1,278人	1,804人	1,594人	1,519人	1,958人

※会場は、桶川公民館・桶川東公民館・加納公民館・川田谷公民館で行われている。

※学級の開催は、例年全9回行われている。

## Ⅱ 講座開催事業の傾向

### <現時点での講座の状況>

- ① 例年開催している「夏休み子供ワールド」は、いずれの講座もおおむね人気が高く、安定した参加が見込まれている。
- ② 日本の伝統文化や歴史に関する講座は人気が高くなる傾向がある。「箏体験講座」、「アレンジしめ飾り講座」、「お正月フラワーアレンジメント講座」、「七福神巡り講座」、「歴史的遺産探訪講座」、「和製本ワークショップ」などへの参加が多かった。
- ③ 昨今の健康志向の影響か、運動、ヘルスケア関係の講座も参加が多かった。「アロマタイ式マッサージ講座」、「雑穀マイスターが教える美人ごはん講座」、「笑いヨガ講座」、「自力整体講座」、「バランスボール講座」「初心者向けバドミントン講座」など。
- ④ 「こども料理教室」、「外国料理講座」、「プロが教えるコーヒー講座」、「手前味噌造り講座」など料理関係の講座への関心も高まっている。

### <課 題>

- ① 中学生、高校生、大学生、20代～30代の若者、子育て中のお母さん、男性の講座への参加が少ない。
- ② 一過性の講座として留まってしまいう講座が多く、サークル化に結び付かない。
- ③ 講座に参加してくださる方が固定化している。
- ④ 社会人向けの講座や保育付きの講座を企画するなどして、公民館利用者の幅を広げる必要がある。
- ⑤ 公民館以外の施設や団体、機関、大学などとの連携を模索し、新たな枠組みで講座を開講する。

# 平成30年度桶川公民館講座実績表

	講座名	期日	回数	定員	参加延人数	対象
1	桶川公民館・図書館 リニューアル記念コンサート	4/1	1	—	150	誰でも
2	文学散歩 ～鷗外・漱石・一葉・啄木の足跡を歩く～	5/31	1	20	21	市民
3	楽しい手ごねパン初級編 ～手作りのおいしいパンを作りましょう～	6/6.13.20.27	4	10	38	市民
4	初めてのゆかた着付け講座 ～ゆかたを着て祇園まつりへくりだそう～	6/30・7/7.15	3	15	21	市民
5	夏の苔玉づくり ～涼を眺める～	7/10	1	20	18	市民
6	【夏】自由研究に環境学習！ ～みんなで考えよう地球のこと～	7/26	1	20	4	市民
7	【夏】こどもアロマじかん ～ぷるぷるゼリーソープ&虫よけミスト～	7/27	1	20	19	小学生
8	【夏】キッズランチシェフ ～とりりんオムライスじょうずにできるかな～	7/31	1	20	20	小学生
9	【夏】めざせ！カラテカ ～護身術にも最適！空手講座～	8/7.8.9	3	16	47	小学生
10	【夏】クラフトバンドでカゴをつくろう ～かわいい小物いれづくり～	8/10	1	20	30	小学生
11	【夏】温度差465℃ ～簡単ピザとかき氷づくり～	8/12	1	16	19	小学生
12	楽しい手ごねパン講座 (追加編)	9/4・12.19.28	4	10	39	市民
13	秋のアロマセラピー講座 ～認知症なんて怖くない～	9/27	1	16	3	市民
14	話題のハーバリウム・ワークショップ ～瓶に閉じ込めた小さなお花の世界～	10/16・11/20	2	25	29	市民
15	こどもの茶の湯 ～おまっ茶でおもてなし～	11/14	1	20	7	小学生
16	簡単おいしいつぶつぶ(雑穀)料理 家族と私のためのヘルシーごはん	11/15・29	3	16	22	市民
17	みんなでおいしく食べるパン講座 ～卵・牛乳不使用のパンづくり～	11/22	1	10	8	市民
18	【X】クリスマスキャンドルをともそう ～お気に入りのキャンドルスタンドをつくろう～	11/25・12/8・15	3	親子10組	30	親子
19	【X】今年はシュトレンでクリスマス	12/2	1	16	16	市民
20	【X】クリスマスおはなし会 クリスマスのお話をキャンドルのもとで	12/15	1	50	25	親子
21	【X】キッシュでクリスマス ～クリスマスパーティー料理～	12/16	1	20	15	市民
22	笑いヨガ ～笑う門には福来る～	1/25	1	20	17	市民
23	集中講義「社会教育を考える」	3/18	1	50	60	近隣委員・市民
	合計		38	450	658	

## 平成30年度桶川東公民館講座実績表

	講座名	期日	回数	定員	参加延人数	対象
1	【夏】究極の昆虫グライダーをつくろう ～空を飛ぶ仕組みを学ぼう～	8/1	1	親子20組	37	親子
2	【夏】親子ふれあい手打ちそば	8/4、11、18、19	午前4回 午後4回	午前6組 午後6組	62	親子
3	【夏】フットサル講座 ～フットサルの基本を学ぼう～	8/20、21、22	3	40	56	小学生
4	大人のためのクラシックギター講座 ～知床旅情を弾こう～	9/7、21 10/5、19 11/2、23	6	10	30	誰でも
5	大人の手打ちそば講座 ～年越しそばを自分の腕で～	11/18～12/25	午前5回 午後5回	12	34	誰でも
6	ひと言の会話力 ～話し方講座～	11/25～12/9	3	12	27	誰でも
7	【X】クリスマス・JAZZ・コンサート	12/9	1	200	137	誰でも
8	【X】プッシュド・ノエルで迎えるクリスマス ～親子で楽しむケーキづくり～	12.23	am/pm	20×2	44	親子
9	親子で和菓子づくり ～その魅力を知ろう～	1/27	1	6×2	21	親子
10	冬のあったかひと巻きマフラー作り ～道具いらずの簡単ゆび織り～	1/23	1	15	15	誰でも
11	おもてなし英会話サロン ～カフェスタイルでゆっくり和やかに～	1/12、19、26	2部×3回	6×2	36	誰でも
12	健康長寿の秘訣 ～毎日をいきいき過ごすために～	1/22	1	80	56	誰でも
13	やさしいエアロとストレッチ ～安全・楽しく・効果的な簡単運動～	3/7、14、28	3	20	55	誰でも
	合計		46	517	610	

## 平成30年度加納公民館講座実績表

	講座名	期日	回数	定員	参加延人数	対象
1	ヨガ&リラックス・ザゼンのすすめ	6/24	1	20	19	市民
2	自力整体 ～骨や筋、筋肉いたわってますか？～	6/30、7/7	2	15	27	市民
3	【夏】マグデブルグの半球 ～真空・空気の不思議を体験しよう～	8/2	1	20	20	小学生
4	【夏】自作の”さお”で魚つり ～釣竿、仕掛けを作り、川で釣りを楽しもう～	8/3、8/5	2	16	31	小学生
5	【夏】木工講座 ～のこぎりや金づちで木作品をつくろう～	8/8	1	20	20	小学生
6	【夏】おりがみ教室 ～世界に誇る日本の文化を受けつごう～	8/17、18	2	16	10	小学生
7	マジック講座 ～不思議と驚きを作り出す楽しさ～	9/28	1	15	7	市民
8	プロが教えるコーヒー講座 ～あなたのコーヒーが一味グレードアップ～	10/1	1	16	16	市民
9	先輩から教わる「一貫張り」講座 ～レトロな買い物カゴの作成～	10/13、14	2	12	16	市民
10	手芸講座 ～リパティプリント生地で素敵なソーイングケースを～	11/4、11、18	3	16	40	市民
11	子どものための茶道教室 <small>(裏千家)</small> ～日本の伝統文化を体験してみよう～	11/14	1	20	—	小学生
12	子どもスポーツ吹き矢教室 ～吹き矢を体験してみよう～	11/14	1	20	—	小学生
13	【X】フルーツポマンダーを作る ～ヨーロッパのクリスマスの習慣～	12/1	1	20	10	市民
14	フラワーアレンジメント講座 ～お正月を華やかなお花と共に～	12/24	1	20	17	市民
15	七福神巡りin浅草 ～江戸時代からの伝統的風習を体感～	1/12	1	20	26	市民
	合計		21	266	259	

# 平成30年度川田谷公民館講座実績表

	講座名	期日	回数	定員	参加延人数	対象
1	【夏】水族館で星空ウォッチング<高学年>	7/27	1	15	6	小学校 高学年
2	【夏】宿題カフェ・第1回【自由研究】	7/28	1	11	8	小学生
3	なつかしい名作映画を観る会Ⅹ 「うみ・そら・さんごのいいつたえ」	7/29	1	50	台風の為中止	一般
4	【夏】夏休み上映会 「うみ・そら・さんごのいいつたえ」	7/30	1	50	10	親子
5	【夏】子ども学芸員になってみよう！ 元荒川水循環センター社会科見学	7/30	1	20	16	小学生
6	【夏】寺子屋×昼めし<<低学年>>	8/1	1	20	21	小学校 低学年
7	【夏】箏の音ワークショップ	8/2・3・4	3	20	53	小・中・高・一般
8	【夏】空の仕事をのぞいてみよう！	8/6	1	15	15	小学校 高学年
9	【夏】水族館で星空ウォッチング <低学年>	8/7	1	15	15	小学校 低学年
10	【夏】宿題カフェ・第2回【図画】	8/8	1	20	台風の為中止	小学生
11	【夏】宿題カフェ・第3回【算数】	8/17	1	20	10	小学生
12	【夏】宿題カフェ・第4回【読書感想文】	8/17	1	20	15	小学生
13	【夏】寺子屋×昼めし<<高学年>>	8/21	1	20	16	小学校 高学年
14	気軽に筆を！～「書」でかざるカレンダー～	11/28・29	2	20	16	一般
15	なつかしい名作映画を観る会Ⅹ 「鉄道員(ぼっぼや)」	1/19	1	50	13	一般
16	楽しく学ぶ声楽講座!中級ステップアップ・コース! みんなで大地讃頌を唄おう	1/19・2/2・9	3	50	168	一般
17	ひだまりコンサート ～みんなでつむぐ心豊かなひとときを～	2/9	1	50	95	一般
18	成功する「体験講座」 企画の作り方ワークショップ	7/3・11・25	3	60	63	団体
19	「体験講座」ワークショップ・実践編 笑来楽習～やってみよう、はじめの一步～	10/19・20・21	3	—	155	一般
	合計		28	526	695	

## 幼児・家庭教育セミナー

	講座名	期間	回数	定員	参加延人数
1	子どもの良さを引き出し、伸ばす子育て	5/30	1	20	5
2	バランスボール	6/13	1	15	13
3	祖父母力アップ！孫育講座	6/27	1	15組	5
4	ストレッチとヨガでリフレッシュ	10/31	1	20	9
5	子どもの心に届くほめ方・叱り方	1/30	1	20	8
6					
					40

## ふれあい学級

	講座名	期間	回数	定員	参加延人数
1	楽しく脳トレ	7/10～7/13	4	320	251
2	楽しい合唱	7/24～7/27	4	320	245
3	音楽と落語の宅配便	8/28～8/31	4	320	247
4	おなか元気教室	9/11～9/14	4	320	231
5	体にやさしいフラダンス	9/25～10/3	4	320	184
6	交通安全教室	10/9～10/12	4	320	185
7	元気にパドル体操	10/23～10/26	4	320	195
8	介護予防教室	11/6～11/9	4	320	193
9	お楽しみコンサート	11/27～11/30	4	320	227
	合計				1,958

## 平成 31 年度 桶川市公民館運営審議会委員関係の会議について

実施年月日	会議名
平成 31 年 4 月 22 日 (月)	第 1 回桶川市公民館運営審議会 (川田谷公民館 視聴覚ホール)
平成 31 年 5 月 22 日 (水)	埼玉県公民館連絡協議会定時総会 (行田市教育文化センター「みらい」文化ホール) 午前 12 時 00 分～ (11 時 00 分～受付)
平成 31 年 8 月 22 日 (木) ・ 8 月 23 日 (金)	第 41 回全国公民館研究大会 第 59 回関東甲信越静公民館研究大会栃木大会 (栃木県宇都宮市 宇都宮市文化会館)
平成 31 年 10 月頃	第 2 回桶川市公民館運営審議会
平成 32 年 2 月頃	第 3 回桶川市公民館運営審議会
平成 32 年 2 月頃	社会教育関係委員合同研修会

## 川田谷生涯学習センターを構成する各施設の改修について

### 趣旨

桶川市川田谷生涯学習センターは、平成4年（1992）に総合的な生涯学習活動の場として設立されている。設立から26年が経過していることから、改修によって施設の長寿命化を図り、施設を健全に運営していく必要がある。

また、桶川市における生涯学習の拠点として設置された当館であるが、その後における社会及び行政施策の変遷の中で、将来にわたって活用される施設であるよう、施設構成の見直しを図ることも必要である。

### I 全般的事項

#### 1. 近年の公共施設の整備

設立時には、公民館が生涯学習の拠点施設とされ、4館の地区公民館が各地区の学習の場として位置づけられていた。同様に、図書館についても中核的な図書館を欠いた状態で3館の小規模な地域図書館が配置されていた。

また、公民館及び図書館は、基本的に市民の利用を前提としており、地域間交流の場としての性格をもつものではなく、生涯学習センターに併設された歴史民俗資料館が、唯一、市内外の参観者の利用に供する施設であった。

平成4年に川田谷生涯学習センターが開設された後、桶川市が開設した市民の活動の場となる公共施設は下表のとおりである。

設立	施設名	活動分野
平成9年11月	桶川市民ホール『響の森』 県立文学館	芸術文化 情報
平成12年7月	べに花ふるさと館	交流 観光 文化の伝承
平成26年11月	市民活動サポートセンター	交流 ボランティア
平成27年10月	桶川市立駅西口図書館リニューアルオープン OKEGAWA hon+併設	情報 交流
平成31年4月	桶川市坂田コミュニティセンター・ 桶川市立坂田図書館	情報 交流

以上の経過の中で、桶川市において、川田谷生涯学習センターが設立された時点とは市民が活用する公の施設のあり方が大きく変化している。

これらの施設整備事業を俯瞰する時、社会教育施設の整備を進めていた平成4年以前の状況と大きく異なることがわかる。

すなわち、圏央道及び県道12号線を横軸として、以下の3ゾーンにそれぞれ施設配置の群が形作られている。

東 群	べに花ふるさと館 坂田コミュニティセンター・桶川市立坂田図書館 桶川東公民館 加納公民館
中央群	桶川市民ホール・県立文学館 駅西口図書館・OKEGAWA hon+ 桶川公民館
西 群	市民活動サポートセンター 川田谷生涯学習センター 城山公園 道の駅おけがわ（仮称 予定）

市民の活動の場である各群が、開かれた交流の場ともなり、かつ、情報系の公共施設である図書館が付属しており、各群に商業施設が立地する。

さらに、東群には国道 17 号線、中央群には J R 高崎線、西群には上尾道路（国道 17 号線バイパス）という縦軸となる交通路が交差する構造をもっている。

このことは、川田谷生涯学習センターの改修にあたっては、単に施設を構成する各施設の改修を行うということではなく、各群がもつ「生涯学習」「芸術文化」「情報」「地域間交流」「経済活動」といった価値を認識しながら、西群の拠点施設として整備することが必要となる。

## 2 施設改修の基本方針

複合施設としての生涯学習センターの施設の改修にあたり、以下のことを基本方針とする。なお、各施設の改修点については、次項に記す。

### （1）施設を構成する各機関の連携

生涯学習とは、「自らデザインし、自ら学ぶ」、「自分で学ぶ」という学習者によってなされるものである。

生涯学習センターを構成する施設が、法に定める固有の機能を発揮しながら、利用者（学習者）の学習ニーズを踏まえ、互いに連携して学習サービスを提供する。

### （2）他の公共施設との連携

生涯学習の拠点施設である川田谷生涯学習センターが、近年、整備が進められた他の公共施設と連携の中で果たす役割を踏まえ、改修を進める必要がある。

また、桶川市が設置した公の施設を運営する指定管理者とも連携し、市民への生涯学習サービスをより充実したものとする。

### （3）交流拠点としての活用

川田谷生涯学習センター内の歴史民俗資料館は、桶川市の文化的アイデンティティを広く発信する博物館施設でもある。また、従来から体験学習プログラムを求めに応じて来館者に提供している。

よって、整備が進められている（仮称）「道の駅おけがわ」や「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場」、さらには熊野神社古墳や原山古墳群などの文化財を訪れる人々に対して、桶川の歴史と文化についての情報提供を行い、また、川田谷公民館とともに交流イベントの場としても活用する。

## II 歴史民俗資料館の改修方針

### 1 施設構成の現状

歴史民俗資料館は、文化財保護施設として位置づけられているが、施設のあり方は基本的に博物館施設と同様である。博物館施設は、右表のとおり4部門の構成をとり、館の性格によって各部門の比率が増減する。

桶川市歴史民俗資料館は、文化財保護施設として、資料の保存に関わる調査研究部門や収蔵部門に重点をおいた構成をとっている。

現状における施設構成の詳細については、添付する「桶川市歴史民俗資料館年報 第1号」に掲載した施設構成の項を参照されたい。

なお、桶川市歴史民俗資料館は、複合施設として川田谷生涯学習センターを構成することから、管理部門及び教育普及部門の一部を他の施設と共用している。

これら共用部分を加えると、県内における市立の博物館施設としては、充実した施設構成をもつ館として知られており、開館以来の事業実績を踏まえ、今後、博物館法に定める博物館相当施設あるいは登録博物館として法的位置づけを明確にすることが求められている。

部門	階数	室名	面積(m <sup>2</sup> )
管理部門	1階	エントランスホール	198.43
		喫茶コーナー	45.84
		事務室	118.52
		休憩室	14.11
		清掃員控え室	7.27
		資材倉庫	17.01
教育普及部門	1階	展示ホール	64.29
		展示室	297.00
		展示準備室	17.74
		体験学習室	98.10
調査研究部門	2階	(視聴覚ホール)	(158.09)
		資料整理室1	110.21
		資料整理室2	48.00
収蔵部門	1階	スタジオ	21.60
		一般収蔵庫	297.00
		特別収蔵庫	73.94
		消化ガスボンベ室	9.00
		荷受室	47.03
		一時保管庫	29.66
収蔵部門	1階	燻蒸室	21.60

## 2 施設構成の変更に関する方針

今後においても桶川市歴史民俗資料館は文化財保護施設として位置づけに変更はない。よって、部門構成については現状を踏襲する。

その上で、各部門の改修にあたっての基本方針を以下のとおりとする。

### (1) 管理部門

公民館及び図書館川田谷分室との共用スペースである。改修にあたっては、道の駅の設置を踏まえ、市内外からの来館者の交流と地域情報提供の場として、エントランスホール及び喫茶コーナーの仕様を見直す。

### (2) 教育普及部門

#### ・展示室

博物館施設たる桶川市歴史民俗資料館の中核施設として引き続き活用する。なお、常設展示については、地域の歴史と文化に関する情報の発信及び観光についてのニーズを踏まえて再構成し、建築工事とは別途に展示制作を実施する。

なお、展示設備については、現状の壁面固定ケースを、国指定重要文化財を含む展示資料の保存環境に配慮した仕様にて、建築工事と併せて更新する。

#### ・展示ホール

展示室の前室空間であり、現状では桶川市歴史民俗資料館のテーマの掲示及び文化財のインフォメーション設備を備えているが、劣化が進んでいる。

これらの機能を、内外からの来館者の交流と地域情報提供の場としてエントランスホールその他の共用スペースに移し、交流イベントや公民館における創作活動の発表の場、すなわち、ギャラリーとして整備する。

- ・体験学習室

開館当初、民俗芸能など地域の民俗文化の伝承活動の場として設置したが、学校教育における体験学習事業と、市内外の団体からの依頼に基づく体験事業の場へとニーズが変化している。

今後は観光的な側面も加味し、公民館と連携しながら伝統文化に基づく体験学習及び地域間交流の場として再構成する。

### (3) 調査研究部門

現状においても、文化財保護施設として充実した規模と仕様をもっているため、基本的には現状を踏襲する。

なお、博物館施設としては、資料整理室1は学芸員室、資料整理室2は資料閲覧室としての機能を想定して室配置を行い、設備を整えている。今後とも機能を維持するために、必要な修繕を施す。

### (4) 収蔵部門

現状においても、文化財保護施設として充実した規模と仕様をもっているため、基本的には現状の構成を踏襲するが、照明や環境維持に関わる設備については更新する。

なお、改修にあたっては、文化財 IPM (総合的有害生物管理 Integrated Pest Management) による管理を実現するために別途定めるマニュアルに基づき、必要な改修を行う。

## 3 主な改修箇所

### (1) 管理部門

※共用部分の改修の項を参照のこと

### (2) 教育普及部門

- ・展示ホール

課題 映像展示及び文化財インフォメーション設備の劣化

対策 文化財インフォメーション機能をエントランスホールに移す  
施設共通のギャラリー空間として再生する

備考 歴史民俗資料館を構成する室であるが、公民館と連携して活用する。

- ・展示室

課題 展示設備の劣化  
常設展示の再構成

対策 壁面固定ケースの更新  
映像展示設備の更新と ICT 対応 (WiFi 環境の導入)

備考 常設展示の再構成は、建築工事とは別途にて制作する。

- ・体験学習室

課題 民俗文化の地域伝承活動の場から、地域交流事業と創作活動の場として再生する

対策 設備の見直し (例 陶芸窯の設置) 食文化体験に関わる衛生設備の見直し

備考 歴史民俗資料館を構成する室であるが、公民館と連携して活用する。

### (3) 調査研究部門

- ・資料整理室 1 (学芸室)

課題 図書収納力の向上  
空調(換気設備)の改善  
給湯設備の復活

対策 移動書架増設  
換気設備の更新  
太陽熱及び電気温水器の廃止と、給湯器の新設

- ・資料整理室 2 (資料閲覧室)

課題 資料閲覧環境の整備

対策 インターネット利用環境及びデジタル化した資料の閲覧環境の整備

- ・スタジオ

課題 デジタル画像に対応した設営環境の整備

対策 定常光対応のスタジオ設備の更新  
WiFi 環境の整備

### (4) 収蔵部門

- ・一時保管庫

課題 収蔵力の不足

対策 収蔵棚の設置 水栓及び流しの廃止

備考 開館当初、後谷遺跡出土品の湿潤保管を行うため、水栓を設置した。

- ・荷受室

課題 前室空間を持たないため、汚染した外気や有害生物の影響を受けやすい

対策 荷受室シャッターおよびドアなどの屋外と接する部分について、防虫および防塵のための遮蔽を行う

- ・燻蒸室

課題 内部の劣化による気密性の低下  
殺虫及び防黴措置手法の変化

対策 今後における殺虫防黴の手法を調査した上で改修を行う

- ・収蔵庫

課題 紫外線カット仕様の蛍光灯の入手困難  
環境維持に関わる設備の劣化とメンテナンス製の向上  
雨漏りの予防

対策 照明機器の LED 化 除湿器の更新 空気清浄ユニットの取り付け位置の変更  
屋上における不要設備(太陽熱温水器等)の撤去と屋上防水工事の施工

## III 川田谷公民館の改修方針

### 1 施設構成の現状

川田谷公民館は、桶川市における社会教育施設として最大の規模をもつ。また、その室構成は、生涯学習に取り組む学習者の高度なニーズに対応するために、機能別室構成を採用し、各室の仕様や設備を構成している。

川田谷地区では、各集落における地域集会所の整備が進んでおり、地域公民館としてのニーズが低い。また、市内西部に中核的な社会教育施設が存在しなかったことから、川田谷公民館は、地区公民館としての施設構成ではなく、施設と設備が一体となって新たな学習需用に対応することを目指した。

しかしながら、開館後、10年あまりが経過したところから、管理の不徹底によって各室の機能が損なわれてしまった経緯がある。平成25年度以降、順次、設備と備品の補修や管理の見直しを行い、併せて設備を活用したモデル事業を行っている。

川田谷公民館の年間利用者数は、市内の公民館の中で最も多い。これは、川田谷公民館が提供する機能が市民のニーズに見合っていることを示している。

## 2 施設改修に関する基本方針

現状の機能別室構成と、各室の機能は基本的には踏襲する。その上で、改修にあたっては、以下のことを基本方針とする。

### (1) 施設サービスの高度化

当初の設備が劣化あるいは旧式化しているものがあり、必要に応じて更新し、現代のニーズに見合う機能を提供する。

また、改修後、機能の維持が健全に行われるよう、メンテナンス性の高い設備を導入するよう配慮する。

### (2) 各公民館との連携

平成29年度までに、川田谷公民館以外の公民館施設は改修工事を終了している。川田谷公民館の改修にあたっては、市内の各公民館と分担して生涯学習を支える観点から学習者に提供する機能を見定め、改修を進める。

### (3) コミュニティ施設並びに文化施設との連携

近年、整備が進んでいる市内のコミュニティ関連施設や文化施設と連携しながら、高度な施設サービスを求める市民のニーズに対応する。

とくに、平成31年度に開館する坂田コミュニティセンターは、川田谷生涯学習センターと共通する施設構成をもっている。今後は、社会教育施設とコミュニティ施設、直営と指定管理といった制度や管理レベルでの差異を超えて、ともに市民の活動を支える立場において連携を進めることが課題となる。

## 3 主な改修箇所

### (1) 視聴覚ホール

機能：講座 会議 音楽活動 視聴覚設備を利用した活動 軽スポーツ

〔改修事項〕

- ・ICT環境へ対応

WiFiネットワークを導入し、講座や会議にインターネット情報を活用できるようにする。

- ・防音性能の向上

音楽活動について防音性を高めるための改修を行う。

- ・床の強化

軽スポーツや舞踊の利用が多いが、1階の図書館への騒音が問題となっている。床の強度及び防音性能を向上する必要がある。

## (2) アートスペース

機能：美術 工芸 手芸

〔改修事項〕

- ・陶芸窯の移転

陶芸窯が室外に設えられており、避難経路の確保や部屋の運用の障害になっていることから、配置の再検討を行う必要がある。移転先としては、歴史民俗資料館の体験学習室も考えられる。

## (3) スポーツホール

機能：スポーツ（球技 体操 ダンス等） 集会 音楽活動

スポーツへの対応に加え、集会やイベントの需用が高く、これに対応するよう設備を改善する。

〔改修事項〕

- ・照明等舞台設備の更新

昇降ボタンが故障し、舞台照明の光量が不足しており、改修を要する。

また、開館時の音響設備は故障した後に撤去されており、現在は、可搬式の機器を利用しているが、音量など不十分であり改修を要する。

- ・スクリーンの再生

開館時に昇降ボタンに付属していた大型スクリーンが撤去されている。よって、集会におけるプロジェクター等の視聴覚機器の運用が困難となっている。

- ・床の補修

ラインが消えかかり、塗装が劣化しており、研磨等の改修を要する。

- ・電動ブラインドの更新

集会やイベントへの対応のために、電動ブラインドによって遮光している。現状で、複数のユニットが故障している。全ユニットの更新を要する。

- ・ドアの遮音性の向上

隣が図書館であることから、ドアの防音性能を改善する。

## (4) 調理室

機能：調理実習及び講座 食文化関連イベント

〔改修事項〕

改修予定の農業センターの調理室が縮小することから、その需要も受け止めるため、調理室として維持する。

利用者数に比して面積が広いことから、調理室と研修室を入れ替えることも検討する。この場合、両室の通行を可能とし、食におけるイベントにおいて、実習と交流を同時に行うことができるような構造とすることも検討する。

#### (5) 研修室

機能：講座等

機能別室配置をとる川田谷公民館において、汎用性の高い空間として維持する。

〔改修事項〕

- ・規模の拡大

規模がやや不足していることから、調理室との入れ替えによって床面積の拡張を検討する。

- ・視聴覚機器の導入

AV 機器が陳腐化しており、I C T 対応の機器の導入を図る。

#### (6) 和室

機能：伝統文化に関する活動（邦楽 茶道 華道 その他） 会議 講座

現在の利用状況から、茶道や邦楽など、伝統文化に基づく学習活動の場として維持する。また、歴史民俗資料館の調査研究部門と連携して、書画の管理にも用いることも開館当初から想定されている。

〔改修事項〕

現在の施設構成を変更するような改修事項はない。

- ・畳の入れ替え

- ・建具の補修

- ・入り口引き戸の修理

## IV 図書館川田谷分室（川田谷図書館）の改修方針

### 1 施設の現状

駅西口図書館、市立図書館を含め、平成31年4月から指定管理の導入が決定している。

運営体制の変更により、開館時間が拡大する予定であり、生涯学習センターにおける学習環境の充実に資するものとなる。

従来の桶川市図書館における当館の位置づけは、小規模な地域図書館とされていた。しかしながら、開館当初から規模に比して充実した蔵書を持ち、複合施設における図書館施設として、以下の特徴がある。

郷土資料の配置：歴史民俗資料館との連携

視聴覚資料の配置：川田谷公民館（視聴覚ホール）との連携

### 2 施設改修に関する基本方針

#### (1) 施設について

川田谷生涯学習センターにおいて、唯一、屋上防水を既に実施している。

また、カウンターや書架などの設備は、良質なものが当初から導入されており、これらも引き続き活用できる。

よって、内装や照明の他には大きな改修は必要としないと判断される。

#### (2) 運営について

複合施設における指定管理者と直営施設の併存については、管理及び事業における連携などに取り組む必要がある。

### 3 主な改修箇所

- ・空調設備の更新
- ・照明設備の更新
- ・排煙設備の改修
- ・カウンターの研磨及び再塗装
- ・通用口ドアの更新
- ・床の補修
- ・照明の更新
- ・閲覧席備品の更新
- ・OPAC（資料検索端末）及びインターネット利用端末の配置の再検討
- ・視聴覚資料（LD・DVD）の試聴設備の改修

## V 共用スペースの改修方針

### 1 施設改修に関する基本方針

川田谷生涯学習センターは、各館の共有スペースを豊かに設定している。これは、図書館や歴史民俗資料館においては個人利用者の在館する空間を確保するとともに、公民館を含めて来館する市民の交流空間を創造することを目指したものである。

今後において、このことに加えて、「道の駅」の利用者や、当市に観光を目的として訪れる人びとの来館も想定しながら、改修を行う必要がある。

### 2 主な改修箇所

#### (1) エントランスホール

現状においてもイベントにおける交流スペースとして活用されているが、そのための設備が整っていない。

また、今後においては、道の駅や旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場などの観光関連施設と生涯学習センターとの連携を踏まえ、地域間交流や地域情報インフォメーションに関わる機能の充実などが課題となる。

#### 〔改修事項〕

##### ・照明の改修

水銀灯による照明をLED照明に変更して照度を確保し、また、メンテナンス性を向上させる。加えて、スポットライトなどの設備を利用できるよう検討する。

##### ・展示設備

ギャラリー的な利用を想定して、移動可能な展示設備を備えること検討する。

##### ・インフォメーション設備

開館時には、施設の利用状況や催事を掲示する電子掲示板を備えていたが、現在、稼働していない。改修にあたっては、これを催事や地域文化の紹介を含めたインフォメーション設備として改修する。

また、災害時における情報提供を想定して、テレビ放送やインターネット情報の活用も考慮する。

#### (2) 喫茶コーナー・幼児コーナー ホワイエ（2F）

これらのコーナーは、以下のことから設置したものである。

- ・複合施設であることから利用者の交流促進
- ・歴史民俗資料館や図書館などの個人利用者への居場所の確保
- ・少人数による打合せなどへの対応
- ・城山公園などの来訪者の休憩

開館にあたりモデルとした施設は、東京都清瀬市における清瀬市立郷土博物館（コミュニティセンターと博物館統合施設）である。

改修にあたっては、エントランスホールや歴史民俗資料館の展示ホールとともに、利用者の交流や情報提供の場として、施設構成を見直す必要がある。

#### 〔改修事項〕

- ・照明の改修

現状の照明はハロゲン球を利用しているが、照度が不足し、また、電球の入手性にも問題がある。十分な照度を確保したLED照明に転換する。

- ・情報提供機能の充実

- ・身障者や女性に配慮した空間の設置

授乳室や幼児室、車いす利用者の休憩場所の確保など

### (3) ゆう遊広場（中庭）

中庭空間は、貴重な文化財を保存する歴史民俗資料館と公民館施設を構造的に分離し、資料の安全を確保するために設定したものである。

また、この空間のグレーチングから雨水を集め、これを中水系に送る設備でもある。環境対策を象徴する空間でもあった。

現状においては、設備の劣化が著しく、市民の立ち入りも行われていない。

#### 〔改修事項〕

- ・噴水設備

この空間には噴水を利用したオブジェが設置され、雨水を利用した中水系の水循環設備とも接続されているが、現状においては稼働を停止しており、改修を要する。

- ・収蔵庫壁面の熱反射ガラス

中庭に面した歴史民俗資料館収蔵庫の外壁は、躯体への日射による輻射熱を遮るために熱反射ガラスにて覆われている。この部分が経年の劣化によって汚染が進んでおり、改修時において対策を要する。

- ・環境空間としての再生

開館時において、水循環を象徴する環境空間としてデザインしたものであるが、管理の困難さから劣化が進んでおり、改修にあたっては植栽を伴う空間とするなどの配慮を行いたい。

## 3 その他の箇所の改修方針

### (1) 建物躯体の維持に関する事項

- ・外壁補修

平成25年度に行った外壁の非構造部分の耐震調査の結果に基づいて補修を行う。

また、展示室及び収蔵庫外壁にクラックが発生しており、補修を要する。

- ・屋上防水工事

平成26年度に図書館部分については施工済だが、その他の部分については未実施のため、施工を要する。

- ・屋上設置物の撤去

歴史民俗資料館部分の屋上に設置されている太陽熱温水設備は現在、稼働しておらず、これを撤去する。

### (2) 設備工事

- ・強電系の改修

受電設備及び発電設備の老朽化が進んでいることから、その更新を行う。

- ・弱電系の改修

分電盤及び管理設備（配電・放送・防災）の更新を行う。また、館内照明の更新を併せて行う。

- ・空調設備

全面的な更新を要する。

- ・給水設備

当初設置されていた太陽熱及び電気給湯器ともに、現状では稼働しておらず、改修を要する。

雨水を活用する中水系の循環と活用については、防災上の見地からも維持したいことから、給水ポンプ及びろ過器などの機器を更新するかどうか、コスト面も含め検討する。

- ・排水設備

衛生機器の改修については、経年の劣化とともに補修資材の入手が困難となっており、便器やフラッシュ制水弁の全面的な交換が必要。

排水管については、過去に発生した問題の評価に加えて、事前調査を行って問題点の把握に努め、改修を実施する。

### （3）外構工事

- ・駐車場改修工事

開館以来の経過の中で、植栽の成長のために、駐車場の不陸が進行している。

- ・擁壁改修工事

農村広場との間を画する擁壁が脆弱であり、土砂の流出が見られる。

- ・テラス及び駐輪場改修工事

- ・その他

「道の駅」の整備と併せて、機能の連携及び回遊性の確保のために必要な改修を行う。

## 管理部門

**エントランスホール・喫茶コーナー 生涯学習センター**として、公民館及び図書館分室と複合されている当館においては、エントランスホールのもつ意味は大きい。すなわち、来館者にとってこの空間は、複合施設としての当館がもつ歴史民俗資料館、図書館分室及び公民館それぞれの機能を選択する場となること、また、予約利用ではなく、複合している施設の特徴から個人あるいは家族単位の施設利用が多く見込まれる。さらには学校等の団体見学における集合あるいは説明の場として十分な広さを確保する必要があった。



エントランスホール

来館者の機能選択については、エントランスから3館それぞれのサインが見渡せるように配慮し、事務室に付属して常設の案内カウンターを設置した。また、生涯学習センターにおける教育活動の中核となる川田谷公民館各室の利用状況を表示するコンピューター利用の表示装置を備えている。

施設の個人利用者が随時利用可能な空間として、喫茶コーナーを設けた。ここには給茶器と自動販売機を設置し、カウンターと流しを備える。開館後の利用状況としては、来館者の休息のほか、市民相互の打ち合わせや講座の後の歓談の場として活用されている。



喫茶コーナー

**事務室** 当館の事務室は、歴史民俗資料館と川田谷公民館の双方が事務を行う場所となっている。現状では、歴史民俗資料館職員7名のうち2名がここに常時勤務するほか、公民館職員3名が事務を執っている。事務の執行にあたっては、歴史民俗資料館と公民館職員は複写機や印刷機などの事務機器を共用している。

この事務室は、生涯学習センターの施設管理を集中して行う場となっており、監視モニターを組み込んだ防災、空調及び電気設備の集中遠隔操作パネルが設けられている。



事務室

## 教育普及部門

**展示ホール・展示室** 展示ホールはエントランスホールに接続し、展示室への導入空間として設けた。当館は複合施設であるために利用者の出入りが多く、外気が直接に侵入する事を防ぐこともこの空間の大切な役割である。

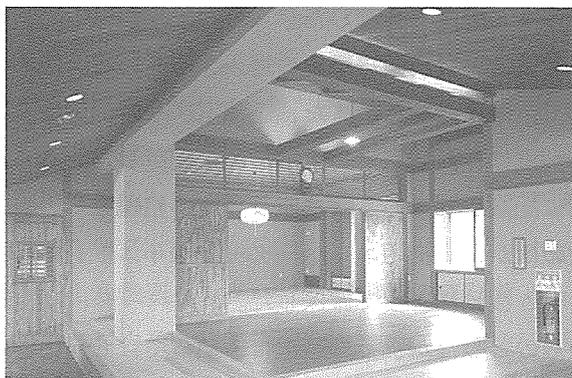
当館は企画展示室を持たない。したがって、常設展示の施設をそのまま用いて、展示資料の入れ替えや企画展示に対応しなければならない。よって、展示施設は壁面固定ケースを主に採用することとした。また、資料の保存環境を良好に維持するため、外壁と内壁の間に空気層をもつ二重の壁体とし、さらに固定ケースは、その背面を内壁から20cm隔てて設置した。



展示ホール・展示室

**体験学習室** 当館は、その基本構想の時点から民俗文化の地域伝承活動を教育普及活動の柱としていた。その活動の場となる体験学習室の配置については、設計時において曲折があった。最終的には、清瀬市郷土博物館における伝承スタジオのあり方を参考とし、現状の配置と構造が決定した。

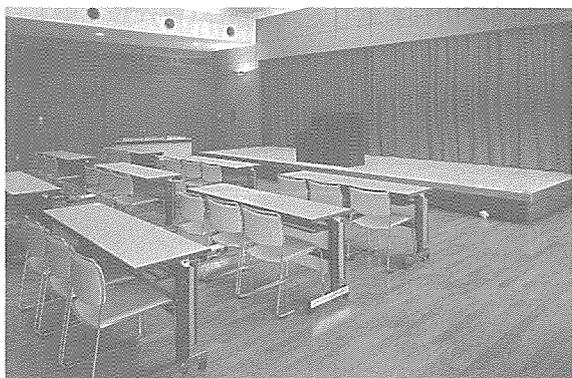
その構造については、農家の構造を参考とし、実際に火を入れることのできる竈を備えた土間（タイル敷き）、板の間と座敷からなる間取りとし、内外の意匠についても伝承活動の場としてふさわしいものとした。



体験学習室

**視聴覚ホール** この部屋は、併設されている川田谷公民館に属するものである。当館は、基本設計の時点から講座の実施にあたる部屋を独自に持つことはせず、公民館施設を利用することとしていた。よって、この視聴覚ホールを講座等の実施の場としている。この部屋の規模は、小学校の1学年が無理なく入室できる規模となっている。

歴史民俗資料館における講座は、視聴覚教材を多用する。したがって、設備及び備品の決定に際しては、公民館と併せて歴史民俗資料館の意向も反映するよう相互に調整した。



視聴覚ホール

## 調査研究部門

**資料整理室 1・2** 当館は学芸員室をもたない。その理由は、開館に至る経過の中で学芸員の配置の見通しがたななかったことと、当館程度の規模では、調査研究部門を構成する各室をそれぞれ配置した場合に各室が本来の機能を発揮しないと判断したためである。

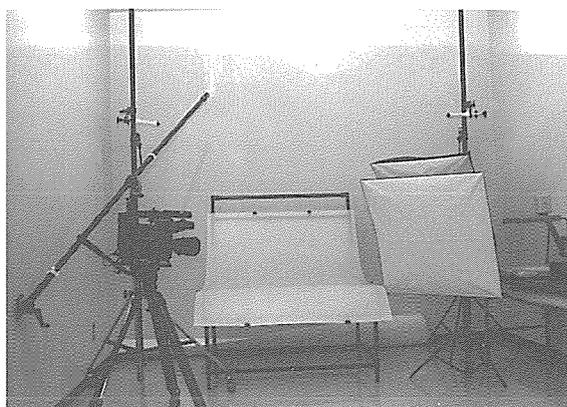
資料整理室1は、当館の学芸業務の中核となる部屋であり、資料整理室と学芸員室を兼ね、学芸業務を行う職員はこの部屋で執務する。したがって、資料カード、調査記録などはこの部屋でファイリングし、パソコン2台を置き、これらの資料の管理を行っている。



資料整理室 1

資料整理室2は、現在、会議及び小規模な講座の場として使用している。基本設計の開始の時点では、市民を対象とした資料閲覧室としての利用を考え、収蔵庫および学芸業務を行う資料整理室と同じ階に配置したものである。

**スタジオ** 学芸業務に伴う写真撮影に対応するほかに、視聴覚教材の制作にも対応する。照明については、VTR撮影にも対応できるハロゲン球を使用し、VTR機材のほかスチールビデオの編集に対応する機材を備える。

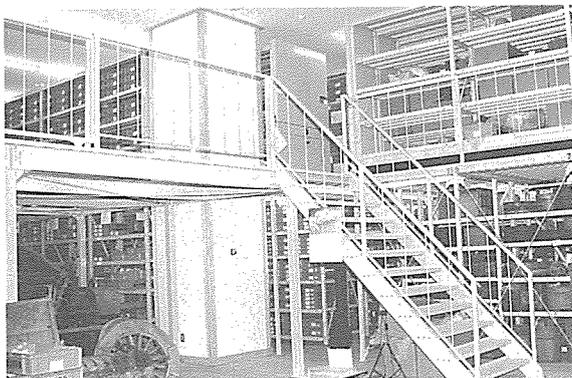


スタジオ

## 収蔵部門

**一般収蔵庫** 当館は、文化財保護施設として、資料の収蔵に関わる各室を充実することをめざして設計にあたった。外壁の内側に空気調和層を設け、内壁及び天井には調湿素材を用いた。また、空気調和層の容量を十分に確保することができなかつたため、換気に際して荷受室周辺の空間を介して外気を導入するよう配慮した。

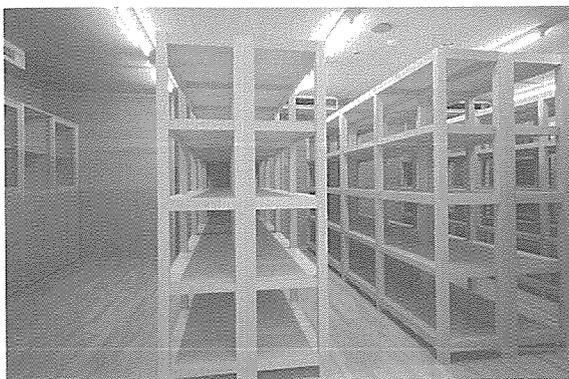
また、収蔵能力を高めるために階上部分を可動とした積層の収蔵棚を採用した。その他の設備としては、除湿器とアルカリガス除去フィルターを仕込んだ空気清浄機を備える。



一般収蔵庫

**特別収蔵庫** 古文書、繊維製品など保存環境に配慮を要する資料を収蔵することを目的として設置した。また、考古資料のうち、保存処理の済んだ木製品及び漆工品などもこの収蔵庫に収蔵する。

構造については、日光の直射する外壁を熱線反射ガラスで覆った外断熱構造をとり、空気層を介した内壁には木質の調湿素材を採用した。内壁の素材の選択に際しては、木板の落とし込みとユニット化した合板（ギャラリーボルト）の双方を検討したが、施工後の形状変化の少ない後者を採用した。



特別収蔵庫

収蔵設備については、スプルー材の収蔵棚と箆箆を設置した。また、一般収蔵庫と同様の除湿器と空気清浄機のほか、温度調節設備と炭酸ガス消火設備を備える。

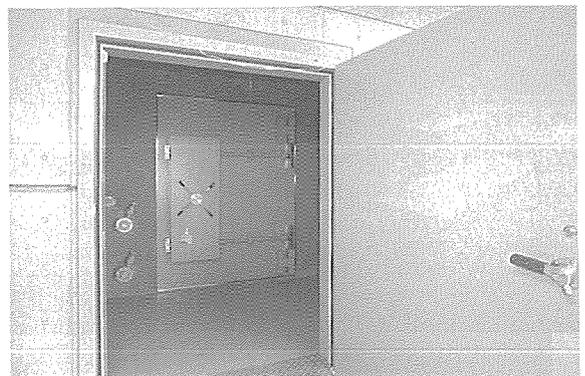
**荷受室・一時保管庫・燻蒸室** ここでは、収蔵庫以外の収蔵部門各室の設置状況を記す。

当館は、複合施設として計画されたために、各室の平面構成は大きな制約を受けることとなった。特に、収蔵庫を2階に配置したことから、荷受けから収蔵に至る資料の導線計画には難しいものがあつた。したがって、設計コンペの当選案をもとに、基本設計を経る中で、収蔵部門各室の配置を改善した。

荷受室は、資料搬送車両の進入するサービスヤードを介して道路に接する。また、燻蒸室、一時保管庫及び展示準備室は、荷受室に接する位置に配置した。さらに、2階に配置されている収蔵庫及び資料整理室への導線は、階段のほか、貨物用エレベーターとホイストレールを備えた吹き抜けによって確保した。エレベーターは1.5t積載のものとしたが、その選択にあたっては6尺の寸法の資料を積み込める法量を基準とした。

一時保管庫は、水洗等の整理を実施する以前の資料と調査資料を保管している。また、当館には、縄文時代の低湿地遺跡出土の木製品を収蔵しているために、一時保管庫に水槽を置いている。そのため、水道栓と排水用の流しを設備している。

燻蒸室は、燻蒸庫と前室によって構成されている。当館は、民具の収集を積極的に進めており、相当の容量が要求された。このような規模の自動ガス投入装置を備えた燻蒸釜を設置することは、建築費の制約から困難であるため、ガスの投入は業者委託とすることとして、ガス投入装置の設置は省略した。



燻蒸室

## 設備部門

化石燃料の消費などによる地球温暖化等の地球環境破壊を防止するため、川田谷生涯学習センターでは、様々な省エネルギー・省資源のシステムを導入した。資料館部分については、効率的なエネルギー消費での施設管理運営を可能とする次のような基本的考え方に立ち、設備計画を実施した。

- (1)安全性、利用時間等による負荷変動を考慮したゾーニング計画とした。
- (2)建築的省エネルギー処理の不足分を空調設備で補う。
- (3)容易なメンテナンス、維持管理費の低廉を計りながら、十分な保存機能を持たせる。
- (4)外部から及び外部への影響（騒音、大気汚染など）をできるだけ少なくする。

### 【実施事項】

#### a. ゾーニング計画

川田谷生涯学習センターは、歴史民俗資料館、公民館、図書館の3つの複合建築物であるため、燻蒸や二酸化炭素消火による人体への危害防止、給排水の漏水による資料への安全性及び空調の効率性等に配慮して設計を行った。

#### b. 温湿度対策

**断熱防水** 屋根における外断熱の採用は、冷暖房による室内環境の負荷軽減にかなり有効である。特に、屋根の部位は、直射日光、雨水などによる外部環境がかなり厳しく、一般・特別収蔵庫の屋根に吸水性能、透湿性能を考慮しながら、断熱防水により外部環境との機能的遮断を図った。

**高性能熱線反射ガラス** 高性能熱線反射ガラスの採用理由は、「ゆう遊広場」と名付けられた中庭の空間的広がり



高性能熱線反射ガラス

の演出効果のほか、屋根と同様、夏の簾的役割を果たさせることによって、特別収蔵庫への直射日光による直射熱および輻射熱の軽減を図った。

**ソーラーシステム** クリーンな太陽熱のエネルギー利用を図ることにより、ソーラーシステムによって生み出された温水は、給湯として、資料整理室で発掘した土器などの洗浄、木工や陶芸を学ぶアトスペースの給湯及び職員のシャワーなどに利用される。また、一般収蔵庫の屋上にシステムが設置されていることから、断熱材としての役割も果たしている。

**空気層・断熱材（第2図参照）** 展示室・一般収蔵庫の外壁および内壁間に厚さ100mm～240mmの断熱空気層と厚さ20mmの断熱材を採用している。また、特別収蔵庫では、資料保護のため、20mmの断熱材のほか、床・壁・天井に最低厚さ130mmの六面システムの断熱空気層を採用している。

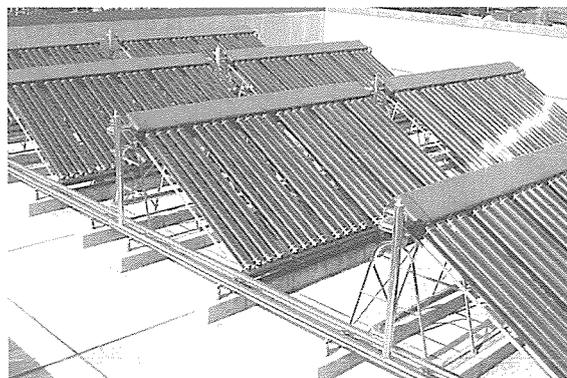
**空調方式** 収蔵庫における空調計画は、重要な計画であり、表2・3に示すように、空調、換気などのゾーニング計画はそれぞれ別系統とした。

一般収蔵庫	変温恒湿方式＝年間の湿度は一定に保ち、温度設定は、緩やかなカーブ（15℃～27℃）を描くようにする。
特別収蔵庫	変温恒湿方式＋補助直接空調＝上記の方式のほか、直接空調は補助的に特に必要と思われる時だけ使用する。

第2表 基本的空調方式の考え方

一般収蔵庫	吸気＝自然吸気 排気＝必要に応じ機械ファン
特別収蔵庫	同上

第3表 基本的換気方式の考え方



ソーラーユニット

**内装材** 一般収蔵庫では、歴史的価値をもつ資料を有害な湿度、乾燥など室内環境から守るため吸湿、放湿などに迅速に対応でき、酸・アルカリを放出しない環境調湿材を壁・天井に使用した。

特別収蔵庫では、空調を補助的に利用するため、前述したように空気層と大きな調湿性能と不透湿性能をもつ断熱調湿材を使用し、なおかつ、室内の空気の洗浄化が可能なトータルシステムで考える計画をした。

**除湿器** 梅雨時期など、一般収蔵庫・特別収蔵庫とも調湿材などで対応できない場合に限り、除湿器を運転させることとした。その仕様としては、電源単相200V・50/60Hz、除湿能力29/32(l/d)のものを使用し、また、設定湿度は60%にして設置している。

### c. 酸・アルカリなどの空気清浄対策

コンクリートから放出される酸・アルカリなどは、アルカリ除去フィルターを持つ脱臭機により取り除く計画をした。

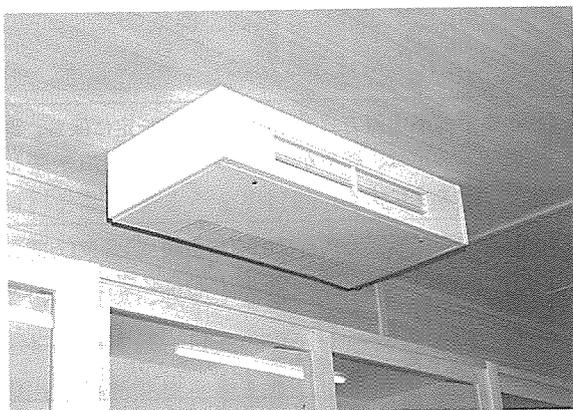
### d. 防災対策

一般収蔵庫、特別収蔵庫とも重要な資料保護のため、収蔵庫と他室との出入り口に、気密性・耐火性・防虫性・防水性・安全性・防犯性のある特注の扉を採用した。収蔵庫内部の防災対策としては、内壁に高い耐火性能を持つ環境調湿材を採用し、加えて屋内消火栓を設置している。また、特別収蔵庫では、地球環境に配慮して、ハロンガスではなく二酸化炭素ガスによる消火設備を採用した。

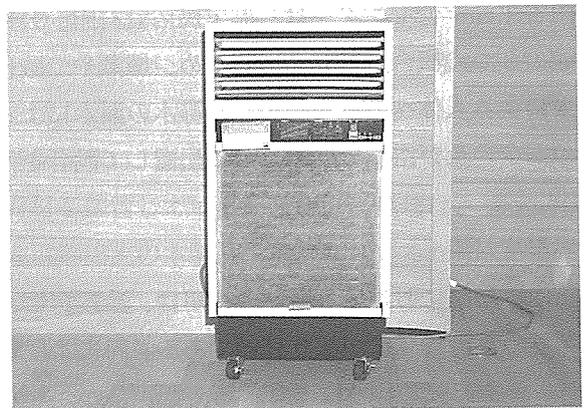
なお、燻蒸室や二酸化炭素ボンベ室及び特別収蔵庫は、燻蒸など人体への危害防止のため、外部に接するような平面計画をした。

### e. 水害事故対策

省エネルギーを考慮してトイレには雨水利用を実施しているほか、重要な資料等に漏水しないよう空調方式は電気式を採用している。また、除湿器からの排水は、パイプシャフト等あらかじめ排水設備を室内に設置している。



脱臭機



除湿器

第2図 展示室・一般収蔵庫・特別収蔵庫断面図

